KOCHI ROTARY CLUB 2024 2025

SINCE 1937

ロータリーのマジック
2024-25年度 RIテーマ

週報

Weekly report 第3614回 2024年12月3日 2024年12月10日発行

●会長挨拶

皆さん、こんにちは。今日は、お客様でガバナーもガバナー補佐もお迎えしてのことですので、何か気の利いたひと言でも言わなきゃいけないかと思うと、ますますプレッシャーがかかってしまいますので、いつものように。うちのクラブのメンバーは、いつもニコニコと温かく皆さまをおもてなしする心で視線を皆さまに注いでいますので、皆さまも高知RCを、これからもますます仲良くしていただくように、ご一緒させていただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

至らない挨拶ですが、本当に心臓がバクバクしてまして、手も震え始めたのでこれぐらいで。皆さんにみっともないところを見せないように頑張って挨拶をさせていただきました。皆さんもごゆっくり、交流をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

■本日のプログラム［12月 10日］

新会員スピーチ
東京海上日動火災保険㈱　高知支店長
灰谷　充史 会員
「海外からみた日本
～海外駐在の経験を通じて～」

会　　長　中島和代
副 会 長　宮田速雄
幹　　事　入交英太
副 幹 事　松﨑郷一郎
会報責任者　岡内聡典

● ロータリーソング「君が代」「四つのテスト」

● 来訪ロータリアン及びお客様

第2670地区ガバナー　夏見良宏氏（丸亀RC）
高知第Ⅱ分区ガバナー補佐　池　和明氏（宿毛RC）
地区副代表幹事　陶國栄帰氏（丸亀RC）

● 夏見ガバナーとバナーの交換を行いました。

● 幹 事 報 告

・12月のロータリーレートは1ドル150円です。
・ガバナー月信12月号を回覧します。
・宿毛RCからの創立60周年式典参加のお礼状をホワイトボードに掲示しています。
・本日例会終了後、記念撮影を行います。
・来年、4月26日、高松で地区大会が開催されます。多くの皆さんの参加をお願いします。

● ゲストスピーチ

ガバナーアドレス

国際第2670地区2024-2025年度ガバナー　夏見　良宏 氏（丸亀RC）

皆さん、こんにちは。本年度ガバナーを拝命しています丸亀RCの夏見良宏と申します。今日は高知RCさんでお話する機会をいただき、心より感謝申し上げます。また、こちらのクラブでは、関パストガバナーはじめ地区委員の方にはお手伝いいただき、改めて御礼申し上げます。

私も実は、あと1クラブで公式訪問も終わります。現在、当地区は73クラブあり今日で71クラブ、最後は恒例で次年度ガバナーを輩出される高知南RCさんに伺って、一応大きなお役目が終わるということで、やっときたなという気持ちです。クラブを回っていると新たな発見があります。今日もそうです。結婚記念日の歌、初めて聞きました。新しい発見で、話のネタが増えました。また、ピアノ演奏でお気遣いいただきありがとうございます。本当に温かいおもてなしをいただいています。

最初に徳島から始まり、愛媛、香川、最後が高知です。終わりよければ全てよしという言葉がありますが、やはり高知が最後で良かった思います。先ほどの会長幹事会でもお話しましたが、高知はとにかく空気感が違います。一緒に来てくれる人たちも、高知へはみんな行くと言うんです。それぐらい、特別な空気感があります。

四国の73クラブ、東の端は阿南、西の端は宇和島です。高知の東の端は中芸、西の端は宿毛。香川県が小さいですから、一番端っこでも高松のすぐ隣の東香川讃岐、観音寺までも車があれば1時間程度。クラブは、みんな同じようなことをしているけど、全て違います。

高知クラブさんは高知県のリーダーで、87年、やがて90周年、100周年と続いていくでしょうが、1つ私の心配は一体いくつのクラブが100周年を迎えられるだろうということです。四国73クラブの内、例えば先日伺った安芸20、中芸11、香長11と、会員数29名以下のクラブが30、その内の半分は19名以下、大きなクラブで40名以上は28クラブ。ですから、ここのように70名以上というのは非常に少ない。しかし、全国的な流れを見ると、大きなクラブは会員が増えるけど、小さいクラブは減っていきます。

これは、この地域だけの問題かというと、全国同じ問題です。1996年、日本のロータリアンは約13万人。今は8万2,000人。特徴的なのはクラブの数はあまり減っていない。この6月に1つのクラブ、愛媛の東予さんが解消しましたが、クラブ数はあまり変わらない。ということは、1クラブの会員数が減っている。1996年頃は、1クラブ平均60数名、今は30数名です。そんな中、世界の現状に合わせて、RIは大きなルールの変更をしてきました。特に2016年、2019年の規程審議会で大きく、出席やクラブ、職業分類など、いろんな分野が変わってきたのはご案内のとおりです。

そんな中で、何が一番変わってきたかというと、時代です。今をひと言でいうとカオスの時代、混乱の時代だと思います。そんな中で、私たちがもう一度考えなきゃいけないのが人類共存という理念そのものが変わってきたことです。

今や地球規模の気候変動や環境破壊、国際的な資源、エネルギー問題、戦争、富の偏在化、社会の高齢化に伴う労働問題や社会保障など、解決すべき諸問題と直面している。そういう社会において、人類共存という理念そのものが揺らいできている。自分の国だけが平和で豊かで幸せでい

いのだろうか、自分だけが幸せでいいのだろうかというところが問い直されている。これがロータリーは変わったというところの原点にあるわけです。

ロータリーは、1905年2月23日に創立されて119歳になりますが、100年経った後、ＲＩは世界の100万人にアンケートや対面で聞き取り調査をしています。そして、これから世界のロータリーはどうあるべきかということでまとめたのが、2017年に出された「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」というビジョン声明で、これに沿って活動を開始しました。

それに合わせて、7つの重点項目に沿って世界中でいろいろな活動をしていますが、活動するにはお金もかかる、人も要るということで、今はロータリーと財団はコインの裏表の関係になっています。

本年度のＲＩ会長、ステファニーA・アーチックさんは「The Magic of Rotary」というテーマを掲げる中で、ポリオ根絶が最優先事項であり、認識向上と資金調達が重要である。２番はロータリーの行動計画の推進者となってほしい。３番は過去50年のやり方を見直すときがきている。その中で、クラブの衰退、会員の減少、地域社会のニーズに合ったクラブの結成や増強をお願いしますと述べています。

ＲＩ、財団ともに一番の課題は、ポリオ根絶です。ただ、このポリオ根絶をスタートしたのはＲＩではなく、日本の麹町ＲＣの小児科の先生が1976年ごろに始めた事業です。当時は日本やアジアにたくさんの小児マヒの患者さんがいたことから、クラブで事業としてやろうとしたのがきっかけで、それが地区に広がり、国際ロータリーが事業として取り入れたのが1985年です。当時、世界に35万人、125カ国にいた小児マヒの患者さんが、今は一時期６名まで減って、あと２カ国パキスタン、アフガニスタンに絞られてきました。

ロータリーはこれまで26億ドルのお金をポリオに使ってきました。そしてさらに毎年1億5,000万ドル集めてポリオ根絶事業を行っています。1億5,000万ドルのうち、ロータリーが5,000万ドル集めたら、倍の1億ドルを出しますというのがビル＆メリンダゲイツ財団との契約です。ですから、毎年皆さんに寄付をお願いして何とか5,000万ドルを集めています。

去年の日経に「ゼロにしなきゃ終わらない」という、尾身茂さんの記事が載っています。尾身さんはロータリーの名誉会員です。1979年当時、尾身さんはＷＨＯのアジアのポリオ担当で、何とか早く終わらせたいのでワクチンを使うためのお金を試算すると、当時のお金で30億円。しかし、ＷＨＯにはとてもそんなお金はない。地域も国も出さないということだったけれども、日本のロータリーが初めて1億円出した。それが呼び水となって、他の団体や国からも寄付があり30億円集まって、いち早くアジア地区からポリオが根絶できたという歴史があります。尾身さんは今でもロータリーさんには感謝しているとおっしゃっています。現在でも、10月24日を世界ポリオデーとして、世界中でいろんな活動をしています。

尾身さんの言うゼロにしなければいけない理由は３つ。１つは、もしやめてしまうと、また10年で患者が20万人に増えてしまう。もしロータリーが手を引いたら、ビル＆メリンダゲイツ財団が最後までやりきって、俺達がポリオを根絶したと世界に言いますよ。もし、ロータリーが中心になってポリオが根絶できて、ゼロが３年間続くとＷＨＯがゼロ宣言をします。するとロータリーはノーベル賞の対象になりますよ。

つまり、これが今ＲＩがやろうとしている行動計画の1つなんです。行動計画を立てるにあたって、大きく真ん中にこういう事業をやりますと、世界120万人のメンバーに言って、参加者の基盤を広げる。ボランティア団体、ロータリーファミリー、みんなが協力してください。そして、エンドポリオが達成した日には、大きなインパクトとして、皆さんが付けているバッジのブランドイメージが上がりますよと。

ですから、地域や各クラブでもこういうイメージ、このような流れで事業を展開して、行動してください。というのが、先ほどの行動計画の推進者となってほしいというアーチックさんのメッセージです。ただ、これは１年や２年で簡単にいく話ではないので、アクションプランチャンピオンを任命して指揮を執って、３年計画、５年計画という中期的な計画でお願いしますということです。

そういう流れの中で、私は今年度のテーマを「青少年に夢を」としました。とにかく社会は著しく便利になっていることだけは間違いない。人工知能、ＡＩ、ロボット、自動運転等々。読み書きそろばんは携帯があれば十分。辞書は要らない。文章も作ってくれる。音楽も作ってくれて絵も描いてくれる。しかし、こんな時代は本当に幸せだろうかということを、もう1回皆さんで考えないといけない。

2024年、ＧＤＰは日本は世界４位、幸福度ランキングでは51位。2023年の48位からランクダウン。30歳以下に限っていえば73位。さらに、他の国と一番違うのは、他人への寛容さ。これは世界で92位、ほぼ最下位です。

日本国内の幸福度ランキングもあります。香川県18位から９位。高知県10位から11位。徳島県47位の最下位から14位。愛媛県14位から27位。特徴的なのは高知県で、ほぼ同じで10位ぐらいをキープしています。都道府県別寛容性総合指標、最も寛容ではないのは徳島県、そして香川、愛媛。なぜ、高知県は幸福度ランキングがいつも上位なんでしょう。私は、幸福度に最も影響が大きいのは家族や家庭、寛容の心ではないかと思います。皆さんは、高知で生まれ育った方がほとんどだとすると、知らず知らずのうちに家族の寛容さ、温かさなどが身について育ったのかなと想像します。

75年にわたるハーバード大学の心理学の研究からはっきり分かったことは、私たちを幸福で健康にするのは富でも名声でも、無我夢中に働くことでもなく、良い人間関係に尽きるというものです。大切なのは、人間関係の質であり数ではない。自分と意見や立場が異なる人たちに、どれだけ理解を示すことができるかという寛容さが大切だと述べています。これはそのままクラブや地域、県に当てはめることができる言葉だと思います。

寛容の心は、昔からポールハリスが言っています。友情はロータリーを築く岩のように堅固な土台であり、寛容の精神はロータリーを結びつけるものである。しかし、逆に寛容の精神を失えば、例えばクラブにおいても失えば、クラブは木っ端微塵に吹っ飛ぶであろう。つまり、寛容の精神がなくなったからこそ、若者が幸せだと感じなくなっている裏返しでもあるわけです。

そんな中で、未来を考えたときには、未来には希望もあるが絶望もある。どんな時代が来るか誰も分からない。「青少年に夢を」と言っていますが、夢がある時代がくるかどうかも分からない。カオスの中にあることは間違いない。ＡＩが高度な予測に則って将来はこうなるであろう、地球はこうなるだろうと、いろんなデータが出ています。それは誰も見たことがないけど、何となくそうなってしまうのではないか。暗い将来が待っているのではないか、そんな空気感が蔓延しているように思います。

「チョウが羽ばたくほどの小さな撹乱でも、遠くの大きな気候変化に影響を与える」という、気象学者のエドワード・ローレンツの言葉があります。ちょっとした行動が将来を大きく変えることに繋がる。このことは皆さんは本当は知っているけど、ＡＩによって、実はもう変わらない社会が来るんだと思ってしまっている。１人では難しくても、その波及を願う人たちがつながれば、僅かな撹乱から新たな勝利を生み出せる力がロータリーにはあると信じています。未来は知識の競争ではなく、創造力、想像力、知恵、体験の競争になる。絶え間なく衝突が起こる時代に、いかに子どもを満ち足りた幸福な人間にするか。今後、教育が決定的な要素となる。未来から振り落とされることなく、未来への問題を解決しなければならない。

これは、アリババの創業者のジャック・マー氏の言葉です。私は全てこのとおりだと思います。では、最後の未来の問題を解決しなければならないのは誰か。やはり、今を生きる人たち、特にここにいる人たちの一つは責任だろうと思います。

ロータリーは、かつて1996年頃は、１クラブ平均60数名、今は30数名。しかし、仕組みは当時のものが今も続いている。当時は19委員会でした。しかし、例えば10名の会員しかいないクラブは委員会もつくれない。だから、それぞれのクラブサイズに合わせてやっていく。例えば大きなクラブは職業奉仕、社会奉仕、青少年交換、一つ一つができる。小さいクラブは同じようにはできない。そういう考え方が、私の今回の考え方なんですけども、これを具体的にやっている人が安藤桃子さん。

先日、南国でお話をする機会がありました。安藤さんには地区大会にも来ていただくんですが、安藤さんは映画監督です。しかし、教育も地域創生もやっている。映画をとおして子どもたちの夢を出させている。そして、地域も巻き込んでいる。結果、活性化や注目、いろんなことが起きている。まさに、先ほど言いましたチョウですね。チョウが羽ばたくことによって、社会は変わるんだという実例がこの方がやっていることです。これはロータリーでいう職業奉仕です。そして、社会奉仕であり青少年奉仕、これを一人でやっている。だから、それぞれのクラブや皆さんが、こういう考え方でやっていくと職業奉仕だからとか、青少年奉仕だからとか、単独ではなくて掛けていくと、もっと大きな力、撹乱が起こせると私は思います。そのための行動計画でありプロジェクトというのがＲＩの考え方なんです。

例えば今まで米山奨学生はクラブに来て報告をしてもらう。そして奨学金をお渡しする。これはどこのクラブも同じことをしています。そこで終わったらただの奉仕だけれども、高松東ＲＣが始めたのは、職業奉仕、社会奉仕、青少年、国際を掛けて、米山奨学生に小学校に出前授業に行ってもらっている。すると、これは国際奉仕であり青少年奉仕であり、地域とのつながりが広がっていく。子どもたちにとっては、国際的なものをすごく身近に感じることができる。同じことをしても、ちょっと変えるだけで羽ばたき方は変わるんだという、具体的なイメージです。

これからもロータリーは、次の時代、50年を振り返った中で次に変えることは、やはりそういうふうに変えていくことによって、また新たなこと、それを授業参観のときにやったらもっとロータリーが何をやっているか大人にも広がるのではないか。学校も、国際交流の中でそういう授業を持ちたい。しかし、なかなかツテがない。でも、ロータリーが紹介してくる、アジアを中心とした優秀な学生さんは喜んで子どもたちに話をしてくれる。そして、毎年違う人がくる。これは継続事業というよりも計画を立ててするとできる。こういうことが、私が伝えたい一つの事業のあり方だろうと思います。私たちが植えた木によって、後の世の若い人たちが涼を楽しめる世界、良い未来が待っていると信じてやっていきたいと思います。

予測不可能な混沌としたカオスの時代ほど、個人も企業も国も、自らが望む最高の未来に気がつく好機と捉えるといいと思います。

改めてロータリーを考えてみました。ロータリーでは、人生の目的を知ることができるという人がいます。人生の目的とは何か。先駆者たちは、それをどう説いているか。人生の

目的とか、そんな大きなものじゃなくて、ロータリーって自分にとってというより、社会にとって、どういう必要性があるんだろうといったことを考える。そして、高知ＲＣはトップリーダー、トップランナーとして、ロータリーはこういうふうにあるべきだということを伝えていく責任があると、私は思っています。それぞれのここにいる人たち、それぞれの地域の会社である、企業である団体のトップの人たちの発言や考え方が、社会に広がっていくんだろうなというふうに思います。

ユーミンというミュージシャンが「エレガント」というのが感性だと言っていたのを思い出します。心を磨くとかいろいろありますが、そういうことを考えるのもロータリーかなと思います。

日本は19世紀のオランダ、スペイン、ポルトガルなどの国々の20世紀版と考えます。オランダ、スペイン、ポルトガルもどこも一時期世界一を目指しました。オランダは既に1,800万人を切る人口ですが、世界で６番目に幸せだと思っている。この違いは一体何なのかを考えるべきだと思います。日本を含めこの国々は、もはや世界をリードすることはないでしょう。ＧＤＰも日本は５位まで後退します。しかし、先進国と言われるアメリカ、ロシア、中国も進歩しているというより先祖返りしているように思われます。本当に昔の時代に戻って食うか食われるかの時代に逆戻りです。

そんな時代において、我が国は彼らと対等に戦うのではなく、清品な国。清く貧しいのではなく、品格の品を用いたような国であるべきだと思います。これは、日本の敗北を認めるのではなく、新しいバランスの中で生きていく。過度の自然破壊、競争の上に立つ国ではなく、協調型の国づくりをするときだと思います。

人類は発展しすぎました。20世紀に発達し遅れたオランダ、スペイン、ポルトガルは日本ほど発展はしていませんが、決して不幸に向かっているわけではない。新しい道を探すときではないでしょうか。ロータリー精神、つまり、お互いの思いやりの心を持って助け合うこと、寛容の心、日本人の心を大切に皆さんと一緒に進んでいきたいと思います。

今日は、このような機会をいただいたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

◇ 例 会 変 更 ◇

高知北RC	12月16日	職場例会(三)	高知東RC	12月18日	忘年夜間例会(阪)
高知南RC	12月19日	年内最終夜間例会(阪)	高知中央RC	12月19日	クリスマス家族夜間例会(城)
高知西RC	12月20日	忘年夜間例会(三)	高知北RC	12月23日	クリスマス家族合同夜間例会(三)
高 知 R C	12月24日	忘年夜間例会(三)	高知ロイヤルRC	12月24日	クリスマス夜間例会(高)
高知東RC	12月25日	休会(阪)	高知南RC	12月26日	休会(阪)
高知中央RC	12月26日	休会(城)	高知西RC	12月27日	休会(三)
高知北RC	12月30日	休会(三)	高 知 R C	12月31日	休会(三)
高知ロイヤルRC	12月31日	休会(高)			

※例会場ホテル ： (三)… 三翠園 (城)… 城西館 (阪)… ザ クラウンパレス新阪急高知 (高)… 高知プリンスホテル

ニコニコ箱 【敬称略】

夏見　良宏ガバナー　よろしくお願いいたします。

入交　英太　結婚記念日をお祝いいただきありがとうございました。本日12月3日、15回目の結婚記念日ですが、夏見ガバナーご来訪のことで頭がいっぱいですっかり忘れていました。帰りにケーキを買って帰ります！

水谷　太一　このたび、12月1日にひろめ市場にて「鍋焼きラーメン寺田家」をオープンする運びとなりました。地元須崎の名物である鍋焼きラーメンを高知を代表する観光地で多くの方々に楽しんでいただける場を目指してまいります。これまでお世話になった皆さまへの感謝の気持ちを胸に地域に根ざした新たな挑戦を進めてまいりますので、ぜひ一度お立ち寄りいただければ幸いです。引き続きご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げニコニコします。

森本　征彦　先日のカシオワールドゴルフ、藤田会員にお世話になりました。お礼にニコニコします。

宮田　速雄　誕生日を祝っていただきありがとうございました。先日、運転免許更新で認知症検査を受け合格しました。落ちる人はほとんどいないそうです。

吉門　文恵　年をとるのがイヤなのか、自分の誕生月をすっかり忘れていました。皆さまにお祝いしていただき、とても良い1日になりました。ありがとうございました。

寺田　文彦　誕生日のお祝いをしていただきありがとうございました。今年で57歳を迎えました。体力の低下が著しく折り返し地点を意識する年齢になりました。子育てがしばらく続きますので、健康に気をつけて仕事と両立したいと思います。

前泊　匡彦　本日はお誕生日をお祝いいただきありがとうございました。

海老原　史　お誕生日を祝っていただきありがとうございました。ニコニコ！

筒井　善樹　結婚記念日をお祝いいただきありがとうございました。感謝の39回目となりました。

中澤　清一　先日、全国的に活躍している光の切り絵作家酒井敦美さんの作品が三翠園の2階階段ホールに完成いたしました。テープカット時にはロータリーの各会員企業の高知新聞さん、テレビ高知さん、NHK高知放送局さんにご来館いただきまして本当にありがとうございました。17時からは映像も流れますので、ぜひご覧ください。それと、結婚記念日を祝っていただきありがとうございました。

◇ 出 席 率 ◇

	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
12月 3日	(-5)86	59	17	5	79%
11月19日	(-7)86	49	10	20	87%

● 累 計 額 ［12月3日現在］

ニコニコ箱	473,350円	ロータリー燦燦(さんさん)基金	104,054円	ポリオ募金	220,500円

■次週のプログラム ［12月 17 日］

ゲストスピーチ
公益財団法人 高知市観光協会 会長
岡﨑　誠也 氏
「高知の観光振興」

創　　立　昭和12年10月
例 会 日　火曜日 12：30～13：30
例 会 場　三翠園ホテル TEL(822)0131
事 務 局　高知市本町3丁目3-39 高知放送南館8階
TEL(824)8660 FAX(824)2529
E-mail　shinairc@joy.ocn.ne.jp
HPアドレス　http://www.221.ne.jp/kochirc/